

大牟田市 × 押し花文化



押し花アーティスト・大牟田大使 杉野 宣雄さん
(3月22日福岡県庁1階ロビー展にて)

大牟田市は「押し花文化のふるさと」「押し花文化の発祥の地」と言われています。

本市出身で押し花アーティストとして世界的に活躍している杉野宣雄さんとその祖父・辰雄さん、父・俊幸さんという親子3代にわたる活動によって、日本全国に愛好者がいる「自然の色そのまま美しい押し花を作る技法」と「その押し花の美しい色を長く保つ技法」が誕生し、発展した歴史があることに由来しています。

技術の礎は父・杉野俊幸氏

技術の礎を作ったのは、科学者の杉野俊幸さん（1925年〜2013年）です。

俊幸さんの義父・杉野辰雄さんは、植物分類学者でした。辰雄さんが採集した植物の押し花標本を自然の色そのまま残したいと、俊幸さんは、妻・道子さんと試行錯誤を繰り返しながら、自然色の押し花の作成と退色を防ぐ技術を開発しました。

その技術により、おなじみの押し花電報が生まれました。1983年には、市内に押花電報製造会社設立され、押し花電報が製品化されていた時代がありました。

技術の礎は父・杉野俊幸氏

俊幸さんは、押し花を文化とし

て根付かせるためには、まず押し花を作る楽しさを知ってもらいたいと、地元大牟田で押し花教室を開き、講師の育成を始めました。その後、市内の小・中学校で「押し花」を授業に取り入れる活動も行いました。

さらに全国への普及を目指した俊幸さんは、当時、東京の大学に通っていた宣雄さんに「押し花の広報活動を手伝ってほしい」と持ちかけました。これが、宣雄さんが押し花の世界へ足を踏み入れるきっかけとなりました。

宣雄さんは、1991年に「花と緑の研究所」の前身である「スベックフラワー」を設立し、押し花の普及展開が本格的に始まります。



杉野 宣雄さんの作品
宮原坑

押し花を芸術として高めたい

2003年に創設された「押し花絵画創造展コンテスト」は、世界33の国と地域から延べ2万人近くが参加する本格的な押し花芸術の国際公募展として成長し続けています。

大牟田押し花の会の活動

「大牟田押し花の会」は、杉野俊幸さんが開いた押し花教室から育った愛好者らが講師となり「講師会」からスタートしました。後に「有明押し花の会」を経て、大牟田文化連合会に加盟する際に「大牟田押し花の会」となり活動を続けています。

大牟田には多くの押し花サークルがあり、毎年、大牟田市市民文化のつどい「大牟田押し花フェスタ」を開催しています。福岡アジア美術館、熊本県立美術館での押し花作品展にも協力しています。また、市内の幼稚園、小・中学校、高等学校や老人保養施設、公民館で押し花教室を行うなど、生涯学習を通して押し花文化の普及に貢献しています。

同会では、押し花の芸術性の向上を目指して勉強会を実施し、大牟田から押し花文化を発信し続けています。

観光プラザでは、押花作品やお土産にふさわしい押花小物の販売も始めており、ふるさと納税の返礼品にも登録されています。

押し花文化にふれる活動

市内の小学校では、地域で活動する文化芸術活動者を学校に招き、子どもたちに質の高い文化芸術に触れてもらうことを目的とした事業「まちの芸術家派遣事業」を行っています。

吉野小学校



「吉野小 桜プロジェクト」の一環として、桜の生花を押し花にして仕上げました。

駛馬小学校



クラブ活動で、生花を摘み、つくった押し花でティーマットづくりを行いました。

銀水小学校



クラブ活動で、押し花を使ったひな飾りを作成しました。

大牟田中央小学校



親子学習会で、押し花を使ってコースターを作りました。

福岡県庁1階ロビーにて押し花展を開催
(3月22日～31日まで)



2017年には、大牟田市制100周年を記念して、第14回展を大牟田と東京で巡回開催しています。

世界で活躍するアーティスト

宣雄さんは、アメリカ最大の押し花コンテストで日本人初のグランプリを受賞。イギリス・ケンブリッジ大学植物園での個展開催では、5万人近い入場者を記録し、押し花アーティストとして世界で活躍しています。

2021年の東京オリンピック・パラリンピックでは、メダリストに贈られるビクトリーブーケ(花束)を押し花にして「押し花ブーケフレーム」を制作し贈呈しました。メダリストからは「思い出が

色褪せずに残せてうれしい」と感謝と喜びの声が届き、多くのメディアから取り上げられました。

4月から、NHKで放送される連続テレビ小説「らんまん」に登場する押し花の制作にも協力しています。

日本の押し花が世界の共通語となることが目標

宣雄さんは、新たな特許技術を次々と生み出し、延べ4万人の指導者(インストラクター)を育成してきました。

現在は、一般社団法人世界押し花芸術協会の会長として「OSHI BANA(オシバナ)」を世界の共通語とすることを目標に、日々創作や技術開発、普及活動を行っ



杉野宣雄さんと大牟田北高校書道部のコラボ作品(同校は杉野宣雄さんの出身校)

ています。

押し花は、室内で作るイメージがありますが、植物を育てたり、季節の草花を採集するところから始まります。

宣雄さんは、気の合う仲間と外に出かけて季節を感じることも、健康寿命を延ばすことにも役立つと考えます。

大牟田で生まれた押し花文化を、日本および世界中へ広めていきたいと願っています。

押し花を使った作品づくり体験

- ▶ 設定日 通年
 - ▶ 会場 予約に応じて設定
 - ▶ 対象 小学生以上・10人(最小催行1人)
 - ▶ 料金 ストラップ500円～他
- ※作品により異なる。会場使用料が必要な場合あり。
- 申込み・問合せ 大牟田押花の会
(☎090-2580-8126)



あなたの感性を、押し花で表現してみませんか？

大牟田押花の会

筒井雅代さん(左)
四井理枝さん(右)